

プロジェクト⑦

ビッグデータを用いて人・物の流動効率化を行う
「サイバーフィジカルシステム」による
安全・安心の実現及び快適な「おもてなし」の実現

平成26年11月13日

プロジェクトのコンセプト

人や物のセンシング、モニタリングから得られた情報について、ネットワーク化・ビッグデータ解析を行い、人や物の流動を効率的なものとして、大会において安全・安心を実現するとともに、快適な「おもてなし」を実現する。

●例えば、以下のようなメリットを想定

対象者	メリット	
国民や訪日客	安全・安心	急病・忘れ物等のもしものときの迅速なサポート 不審な動きの早期発見による事件の予防や早期解決
	快適なおもてなし	大会開催中の混雑解消 ワンカードで、会場入場に加えて多様なサービス利用を可能に
施設管理者やサービス事業者	警備や様々なサービスの品質・効率の向上	
行政機関	大会後も活用可能な枠組みや知見	安全・安心なまちづくりや人が流れやすい都市構造等

プロジェクトの取組内容

- 例えば、国民や訪日客に対して、施設管理者やサービス事業者、行政機関からの以下のようなサービスの実現に向けた検討を実施

	メリット	サービス
安全・安心	急病・忘れ物等の もしものときの 迅速なサポート	観戦客の移動経路上(会場、会場周辺施設、公共交通機関、空港等)に設置されているセンシングインフラ(防犯カメラや赤外線センサ等)を複数組み合わせ、個々人のプライバシーを守りつつ、ビッグデータ解析を行うことにより、急病人や高体温の人の早期発見とサポート、忘れ物の早期発見、障がい者の移動経路の先読みによるサポート、警備員配置の適切化等を実現
	不審な動きの 早期発見による 事件の予防や早期解決	
快適な おもてなし	大会開催中の混雑解消	上記のセンシングインフラとビッグデータ解析によるシミュレーションを組み合わせた、職員やボランティアの効率的な配置及び適切な誘導による混雑解消
	ワンカードで、 会場入場に加えて 多様なサービス利用を 可能に	チケットが電子化される場合に、決済機能や母国語情報等の様々な情報を付加する(その際、紛失時等の安全も担保することにより、入場のみならず交通機関や飲食店の利用、母国語でのサービスをスムーズに受けられる

これらを支えるものとして

- 大量で分散化されたデータを収集・蓄積する技術
- 画像処理技術
- 人や物の流動均一化等を狙うデータ分析・シミュレーション・提示技術
- データを安全・安心に取り扱うための強固なセキュリティ技術等の活用・開発を検討

さらに深掘りが必要な事項や課題等

- サービス内容の確定
- 実現イメージや技術に関する項目
 - 既に存在する技術・開発すべき技術の洗い出しと、技術の開発主体の検討
 - チケットが電子化される場合、紛失時にも安全な仕組み
- 関係機関との調整が必要な項目
 - サービス実施場所（例えば、会場、会場周辺施設、公共交通機関、空港等）の管理者・運用主体との調整
 - チケットが電子化される場合、大会主催者との調整
- 関係機関での検討状況等を踏まえる項目
 - データの取得・利活用について
 - パーソナルデータの利活用に関する制度改正等
 - ビッグデータの管理主体（例えば、公的機関や事業者団体等）に関する検討
 - チケットが電子化される場合、正当な譲渡を可能とし、空席が増えないようにするとともに、不特定多数への転売を防ぐ仕組みの検討等

今後のスケジュール(案)

